

宇和島市新公立病院改革プラン 点検・評価書
＜平成28年度＞

宇和島市病院局

市立宇和島病院

1. 数値目標に係る点検・評価

①医療機能等指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
救急患者数 (人)	17,200	16,907	△293	×	H29年1月より、救急医療体制がJCHO宇和島病院・徳州会病院の3病院による輪番体制に変更したこと等により微減となったもの
紹介率 (%)	34.2	35.1	0.9	○	
逆紹介率 (%)	35.2	36.9	1.7	○	
年間入院患者数 (人)	145,000	146,316	1,316	○	
年間外来患者数 (人)	252,380	250,636	△1,744	×	内科が前年度から5,726人減少したため
救急搬送応需率 (%)	98.0	97.3	△0.7	×	

②経営指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
経常収支比率 (%)	104.6	102.9	△1.7	×	医業費用(給与費・材料費・減価償却費)の増による
医業収支比率 (%)	103.0	101.2	△1.8	×	医業費用(給与費・材料費・減価償却費)の増による
材料費対医業収益比率 (%)	25.3	25.6	0.3	×	薬品費(+59,996千円)の増による
うち薬品費対医業収益比率 (%)	15.5	15.9	0.4	×	薬品費(+59,996千円)の増による
職員給与費対医業収益比率 (%)	46.1	46.5	0.4	×	嘱託医師(研修医)の増、臨時看護師の増
1日当たり入院患者数 (人)	397.3	400.9	3.6	○	
1日当たり外来患者数 (人)	1,038.6	1,031.4	△7.2	×	内科外来患者の減(増減率は△0.7%と微減)
病床利用率 (%)	91.8	92.2	0.4	○	
平均在院日数 (日)	13.5	13.1	△0.4	○	
医師数 (人)	74	75	1	○	
看護師数 (人)	345	344	△1	×	H28年度採用後、年度内に2名退職したため
現金保有残高 (百万円)	7,850	7,800	△50	×	薬品費(+59,996千円)の増により支払いが増加したもの

2. 具体的な取組み内容に係る点検・評価

項目		計画	点検・評価	
経営の効率化	目標達成に向けた具体的な取組	民間的経営手法の導入	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品購入単価に関して、当院と他病院との比較調査を民間業者に依頼予定。当調査結果によっては、公立病院が不得手とする交渉の分野でも委託したいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国自治体病院協議会の医薬品ベンチマーク分析システムにて比較を行った。 検討委員会を組織し、比較調査委託に向けての検討を行った。
		事業規模・事業形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 黒字経営を継続していることもあり、現時点では事業規模等の見直しは予定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度も引き続いて経常収支、医業収支ともに黒字を確保している。 N I C U 10床のうち6床について、認可を得たため加算を得ることができた。
		経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期病院として、使用頻度の多寡に拘わらず必要な医療機器は整備しなければならないが、医療行為に直接関係しない経費に関しては、費用対効果を念頭に経費節減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備については予防保全を行うなど、修繕経費を抑制したほか、内部管理経費について見直しを行うなど、経費節減に努めた。
		収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 7対1入院基本料の取得に向けて、必要な看護師数の確保に努める。 臨床研修医が、研修期間終了後も当院に残って勤務してもらえるような魅力ある病院経営（指導医が多数、新専門医制度に即した体制構築など）を目指す。 クレジットカードでの支払いを可能とし、利便性の向上とともに未収金の抑制を図る。 放射線治療を充実させるために、IMRT（強度変調放射線治療）及びその進化形であるVMAT（強度変調回転照射）を実施することにより、当院にて治療可能な患者数増を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師については通年で募集しており、確保に努めている。 より多くの指導医を確保することで研修医の受入体制の強化を目指した。6名の医師が指導医研修へ参加し、指導医資格を取得したほか、平成30年度から導入予定である「新専門医制度については、当院基幹型研修として「外科専門研修プログラム」の申請を行い、体制の構築に向けた準備を進めている。 クレジットカードでの支払いを平成29年度から開始できるよう準備を進めている。（H29.9月より開始） IMRT及びVMATの実施に向けて必要な体制の構築、物品を整備するなど準備を進め、平成29年2月より保険診療を開始した。
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 当院が運用を開始した地域連携ネットワークシステムである「きさいやネット」は、電子カルテを他の医療機関と共有することで患者負担の軽減を図るとともに、病院完結型医療から地域完結型医療への転換を推進している。国の考えを理解し、圏域内で求められている役割を果たせるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の医療機関に「きさいやネット」への接続を積極的に勧めるなど、地域独自のネットワークシステムを活用して地域完結型医療の推進を目指した。

項目		計画	点検・評価
再編・ネットワーク化	再編・ネットワーク化計画の概要	<p><状況> 地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討する必要がある。</p> <p><概要> 策定時期未定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後の地域医療構想調整会議における議論を踏まえて検討していくこととしている。
経営形態の見直し	経営形態見直し計画の概要	<p><現況> 公営企業法全部適用</p> <p><概要> 策定時期未定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年4月1日に地方公営企業法の全部適用を実施しており、当面は現状を維持していくこととしている。

宇和島市立吉田病院

1. 数値目標に係る点検・評価

①医療機能等指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
年間入院患者数 (人)	28,835	28,074	△761	×	9月末に常勤内科医1名退職
年間外来患者数 (人)	34,749	34,250	△499	×	9月末に常勤内科医1名退職
訪問診察件数 (件)	255	219	△36	×	訪問対象患者の入院・死亡等による減
訪問看護件数 (件)	603	497	△106	×	訪問対象患者の入院・死亡等による減
訪問リハビリ件数 (件)	42	42	0	○	

②経営指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
経常収支比率 (%)	102.0	102.5	0.5	○	
医業収支比率 (%)	94.8	94.9	0.1	○	
職員給与費対医業収益比率 (%)	64.5	64.5	0.0	○	
1日当たり入院患者数 (人)	79.0	76.9	△2.1	×	9月末に常勤内科医1名退職
1日当たり外来患者数 (人)	143.0	140.9	△2.1	×	9月末に常勤内科医1名退職
病床利用率 (稼動病床) (%)	79.0	76.9	△2.1	×	9月末に常勤内科医1名退職
患者一人1日当たり診療収入 (入院) (円)	19,200	19,125	△75	×	地域包括ケア病床開始により療養病床において長期入院患者が増加したもの(増減率は0.4%と微減)
患者一人1日当たり診療収入 (外来) (円)	6,200	6,297	97	○	
医師数 (人)	4	3	△1	×	9月末に常勤内科医1名退職後、常勤医を確保できなかったもの

2. 具体的な取組み内容に係る点検・評価

項目		計画	点検・評価	
経営の効率化	目標達成に向けた具体的な取組	民間的経営手法の導入	<ul style="list-style-type: none"> 経営情報の分析強化 医事管理業務、清掃業務、守衛業務については既に民間委託しており、今後とも費用対効果を見極めながら民間委託を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 月次及び年次での決算情報を基に収支分析を行っているが、会計制度改正、医師の退職など経営状況の変動が大きいため比較分析が困難な状況である。 民間委託については個別具体的な検討はできていないが、給食など委託可能な業務について検討を進めていくこととしている。
		事業規模・事業形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 検討中の旧館の機能廃止によって減床する可能性があるため、事業規模の見直しが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた医療資源を最大限活用し財務改善に反映するため、数年以内に業務コンサルを予定している。 今後の地域医療構想調整会議における議論を踏まえて適正な規模を検討していくこととしている。
		経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 人件費の削減 退職看護師の補充については、基本給の安い若年層の職員を採用することで人件費を抑える。また、新規採用の際には将来を見据えたものとなるよう採用人数など計画的に採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比15,000千円の減 常勤内科医の退職(9月末)・看護師給与の減によるもの。但し常勤内科医退職により収益も減となった。 <p>現状が継続されれば人件費は年々減少していく見込みであるが、収益増加を目指して医師確保に努めており、医師が採用されれば人件費は増加になることも見込まれる。</p>
		収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 現在、常勤医3名(内科・外科・歯科1名ずつ)、宇和島病院・愛大等からの非常勤医師13名(内科・心療内科・外科・眼科・耳鼻咽喉科)を今後も継続する。 医業収益の増加を図る為、外来収益が低くなる体質を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医3名、非常勤医師15名 入院収益は前年度比△33,524千円、外来収益は前年度比△6,605千円(人口減に加えて、看護職員の減少、常勤内科医の退職による影響) <p>現状では、常勤医に多大な負担がかかっており、医師の確保が急務である。</p>
		その他		

項目		計画	点検・評価
再編・ネットワーク化	再編・ネットワーク化計画の概要	<p><状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の新設・建替等を行う予定がある。 ・地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討する必要がある。 <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧館の老朽化及び耐震診断の結果に加え、医師不足も相俟って、病院機能・病棟編成が必要となっている。 ・計画策定時期未定 	<p>今後の地域医療構想調整会議における議論を踏まえて検討していくこととしている。</p>
経営形態の見直し	経営形態見直し計画の概要	<p><現況></p> <p>公営企業法全部適用</p> <p><概要></p> <p>策定時期未定</p>	<p>平成22年4月1日に地方公営企業法の全部適用を実施しており、当面は現状を維持していく。</p>

宇和島市立津島病院

1. 数値目標に係る点検・評価

①医療機能等指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
年間入院患者数 (人)	29,930	30,549	619	○	
年間外来患者数 (人)	43,860	42,615	△1,245	×	整形外科医の退職による減
訪問診察件数 (件)	461	436	△25	×	患者の入院・死亡等による減
訪問看護件数 (件)	1,500	1,492	△8	×	患者の入院・死亡等による減
訪問リハビリ件数 (件)	743	745	2	○	

②経営指標に係る数値目標

項 目	28年度目標値	28年度実績	増減	評価	未達成の要因
経常収支比率 (%)	104.0	112.8	8.8	○	
医業収支比率 (%)	93.1	101.5	8.4	○	
職員給与費対医業収益比率 (%)	63.8	55.0	△8.8	○	
1日当たり入院患者数 (人)	82.0	83.7	1.7	○	
1日当たり外来患者数 (人)	120.2	163.9	43.7	○	
病床利用率 (稼動病床) (%)	78.1	79.7	1.6	○	
患者一人1日当たり診療収入 (入院) (円)	23,537	24,002	465	○	
患者一人1日当たり診療収入 (外来) (円)	8,300	8,357	57	○	
医師数 (人)	4	4	0	○	

2. 具体的な取組み内容に係る点検・評価

項目		計画	点検・評価
経営の効率化	民間的経営手法の導入	<ul style="list-style-type: none"> 経営情報の分析強化 医事管理業務、清掃業務、機械設備管理、給食管理などについては既に民間委託しており、今後とも費用対効果を見極めながら民間委託を進める。 人員管理の徹底を図り効率的配置に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回院長が経営説明会を開き経営分析結果を報告して全職員に周知し、収益増加と経費節減への意識改革を促した。 引き続き、費用対効果を精査しながら検討を継続していく。 病院局による一元的な人員管理により、効率的配置に努めた。
	事業規模・事業形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 津島地区の人口減少に応じて効率化を考え、適切な病床数規模を検討する。 療養病床を転換し、介護・一般併用での運用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、医師の確保状況等を精査しながら検討を継続していく。 引き続き、地域の需要等を精査しながら検討を継続していく。
	経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 人件費の抑制に努め、退職看護師の補充については嘱託職員とし、その他医療技術員等についても、できる限り嘱託で対応する。 節電・節水の徹底による高熱水費の節約。 物品購入や各種管理委託業務について、現状よりも広いエリアで該当業者を公募する（競争させる）ことにより、経費節減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員給与費は、前年度比で19,167千円の減である。 光熱水費は、前年度比で85千円の減である。 ホームページにより業者を広く公募し、経費節減に努めた。
	収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 内科・整形外科・総合診療科などについて、関連大学への継続的な医師確保要請を行うと共に、県医師確保対策事業（ドクターバンク事業）等やホームページを活用し、医師数増加を図る。 地域包括ケア入院医療管理料の届出などにより、収入増加を図る。 定期的な請求書の送付や職員による訪問徴収を実施し、未収金の回収を目指す。 診療報酬取扱いマニュアルを基に定期的な学習会を開催し、請求の漏れ防止を目指す。 土曜診察（月1回）の実施により、患者満足度向上による増収を目指す。 診察、処方待ち時間等の時間短縮により、患者満足度向上を目指し、リピート効果による増収を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、医師の確保に向けて活動を継続していく。 地域包括ケア病棟の導入により患者数の増加を図った結果、入院患者数は前年度比で1,708人増加した。 前年度に発生した患者未収金3,778千円のうち、3,529千円を回収した。 毎月1回レセプト査定会議を開き、請求漏れ等の防止を図った。 毎月1回土曜診療を実施し、患者満足度の向上を図った。 電話による診察予約、処方箋の薬局への事前FAX送信等により、待ち時間短縮を図った。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の病気予防と健康増進、津島病院への理解を深めることを目的として、平成18年度から各自治会に呼びかけて、講演や意見交換等による医療懇談会を実施している。今後も継続して実施し、外来患者増加につなげる。 平成29年度から愛大地域医療学講座の学生受入を始めると共に、総合診療医を中心とした研修医など、医師増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療懇談会を年間10回実施し、参加者数は合計287人であった。 平成29年度に愛媛大学医学部5年生を、年間5回・各期2名を受け入れる予定である。

項目		計画	点検・評価
再編・ネットワーク化	再編・ネットワーク化計画の概要	<p><状況> 地域医療構想等を踏まえ医療機能の見直しを検討する必要がある。</p> <p><概要> 策定時期未定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後の地域医療構想調整会議における議論を踏まえて、検討していくこととしている。
経営形態の見直し	経営形態見直し計画の概要	<p><現況> 公営企業法全部適用</p> <p><概要> 策定時期未定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年4月1日に地方公営企業法の全部適用を実施しており、当面は現状を維持していく。